

V 教科別分析結果
(中学校)

2 中学校第2学年

(1) 国語

① 概要

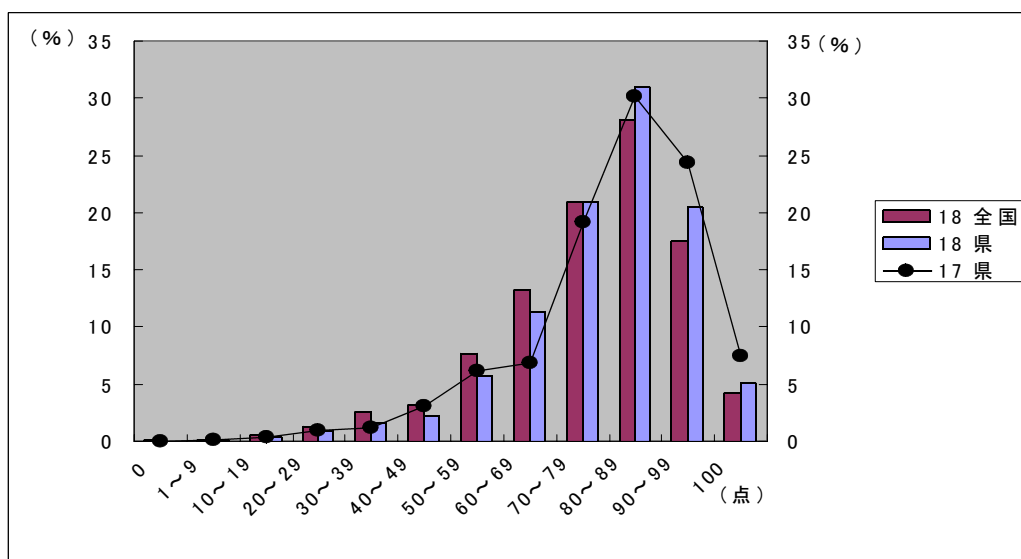
教科全体、各領域ともに全国平均よりやや高い。特に、「書くこと」は全国平均より4.9ポイント高い。また、関心・意欲・態度においても全国平均より高く、概ね満足できる結果であった。

今後は、説明的文章においては、因果関係や筆者の意見などに着目し、文章の構成や展開を的確にとらえ、文脈に即した内容の理解を図る指導、また、文学的文章においても、文章を豊かにしている工夫された表現などを意識させながら、登場人物の設定や心情の変化を読み取ったり、場面の情景、描写を的確にとらえたりする力を育てる授業の展開が必要である。

② 平均点

		記号	平成18年度			平成17年度		
			全国	宮崎県	全国との差	全国	宮崎県	全国との差
全 体	教科全体		76.4	79.2	2.8	77.8	80.6	2.8
	基礎		79.8	82.8	3.0	80.5	83.4	2.9
	応用		68.0	70.2	2.2	71.4	74.1	2.7
観 点 別	話す力・聞く力	A	84.9	86.4	1.5	84.1	86.4	2.3
	書く力	B	69.1	74.0	4.9	69.1	74.2	5.1
	読む力	C	70.0	72.0	2.0	69.8	72.3	2.5
	言語についての知識・理解・技能	D	79.1	82.6	3.5	82.8	85.8	3.0
領 域 別	音声言語	a	84.9	86.4	1.5	84.1	86.4	2.3
	説明的文章	b	67.7	69.1	1.4	66.8	68.9	2.1
	文学的文章	c	72.2	74.9	2.7	72.8	75.7	2.9
	言語事項	d	79.1	82.6	3.5	82.2	85.3	3.1

③ 得点分布グラフ



④ 小問ごとの出題内容と通過率 [中学校第2学年 国語]

大問	小問	出題内容				平成18年度			平成17年度			
		設問事項	観点別	領域別	設問形式	設問比較	全国	宮崎県	全国との差	全国	宮崎県	全国との差
1	1	話題の順序の聞き取り	A	a	ア	○	88.8	89.9	1.1	89.1	90.7	1.6
	2	話し合いの内容の聞き取り	A	a	ア	○	90.1	90.0	-0.1	89.8	90.3	0.5
	3	話し合いの内容の聞き取り	A	a	ア	○	75.8	79.4	3.6	73.5	78.3	4.8
2	1	漢字の読み	D	d	/	○	92.9	94.7	1.8	93.6	95.6	2.0
	2	漢字の読み	D	d	/	○	94.4	94.8	0.4	94.5	95.4	0.9
	3	漢字の読み	D	d	/	○	94.9	96.7	1.8	95.3	96.8	1.5
	4	漢字の読み	D	d	/	○	77.3	85.6	8.3	79.6	87.0	7.4
	5	漢字の書き	D	d	/	○	71.1	76.2	5.1	77.0	81.8	4.8
	6	漢字の書き	D	d	/	○	77.0	82.5	5.5	76.6	80.7	4.1
	7	漢字の書き	D	d	/	○	80.6	83.4	2.8	81.2	83.6	2.4
	8	漢字の書き	D	d	/	◇	54.2	64.5	10.3	/	/	/
3	1	文節の区別	D	d	/	○	96.9	98.6	1.7	97.1	98.1	1.0
		主語の指摘	D	d	/	○	69.9	75.0	5.1	58.4	59.2	0.8
	2	述語の指摘	D	d	/	○	81.9	85.6	3.7	68.6	71.8	3.2
		文の成分	D	d	ア	○	64.0	67.2	3.2	78.5	81.0	2.5
	3	1 部首	D	d	ア	◇	54.2	52.0	-2.2	/	/	/
	3	2 部首	D	d	/	○	85.6	91.9	6.3	86.4	91.4	5.0
4	同音異義語	D	d	ア	◇	91.0	90.7	-0.3	/	/	/	
4	1	文脈に即した内容の理解	C	b	ア	○	58.1	57.9	-0.2	56.6	57.3	0.7
	2	適切な接続詞の選択	C, D	b	ア	○	92.9	93.0	0.1	92.4	93.3	0.9
	3	文脈に即した内容の理解と記述	C, B	b	エ	○	47.3	50.3	3.0	44.8	48.7	3.9
	4	文脈に即した内容の理解	C	b	ア	○	54.5	53.2	-1.3	54.2	53.7	-0.5
	5	主題に対する考えの記述	C, B	b	エ	○	85.8	90.9	5.1	85.8	91.4	5.6
5	1	文脈に即した内容の理解	C	c	ア	○	72.9	73.4	0.5	72.4	74.3	1.9
	2	文脈に即した内容の理解と記述	C, B	c	エ	○	68.4	71.2	2.8	70.1	74.9	4.8
	3	人物の心情の理解	C	c	ア	○	73.5	74.9	1.4	73.4	73.9	0.5
	4	比喩表現の理解	C	c	ア	○	71.5	71.6	0.1	72.4	73.5	1.1
	5	人物への助言の記述	C, B	c	エ	○	75.0	83.4	8.4	75.7	81.8	6.1

※ 「観点別」 A 話す・聞く B 書く C 読む D 言語についての知識・理解・技能

※ 「領域別」 a 音声言語 b 説明的文章 c 文学的文章 d 言語事項

※ 「設問形式」 ア 記号選択 イ 空欄補充（選択記述） ウ 空欄補充（思考記述） エ 思考記述

※ 「設問比較」 ○印 昨年度と同一問題 □印 昨年度との類似問題 ◇印 今年度、新たに導入された問題

⑤ 領域別にみた指導方法の工夫改善の在り方

ア 音声言語

3問中2問は全国平均よりやや高く、1問は全国平均とほぼ同じである。また、領域全体で前年度の県平均と比べるとほぼ同じとなっている。

そこで、指導に当たっては、聞くこと的能力を平常の授業においてさらに育てていくために、話の論理的な構成や展開に注意して的確に話したり聞いたりする活動や、話の要点を内容や目的に応じて簡潔にまとめたりするような活動を取り入れることが大切である。

イ 説明的文章

5問中「主題に対する考えの記述」は5.1ポイント全国平均より高く、また「文脈に即した内容の理解」はやや低く、他は全国平均とほぼ同じである。設問形式から見ると、記述式では全国平均より高いのに対し、選択式では全国平均とほぼ同じかやや低い結果となっている。文章の内容を踏まえて自分の考えをまとめて書く小問の無解答率は小問3が7.6ポイント、小問5が6.6ポイントである。また、領域全体で前年度の県平均と比べるとほぼ同じとなっている。

そこで、指導に当たっては、文章の中心の部分と付加的な部分を読み分けながら、文章の構成や展開、内容を的確にとらえる活動や、文章の要旨を的確にとらえて簡潔にまとめたりするような授業を継続していくことが必要である。

ウ 文学的文章

5問中「人物への助言の記述」が8.4ポイント全国平均より高く、また「比喩表現の理解」はほぼ同じであり、他は全国平均よりやや高い。小問5の無解答率は、全国平均が17.3ポイントであるのに対し、県平均は10.9ポイントとなっている。また、領域全体で前年度の県平均と比べるとやや低くなっている。

そこで、指導に当たっては、登場人物の設定や心情の変化を読み取ったり、場面の情景描写を的確にとらえたりする活動を中心としながら、文脈上の語句の意味や用法の的確な理解、比喩、倒置、体言止めなど、文章を豊かにしている工夫された表現などにも目を向けさせる指導が必要である。また、自分の考えを簡潔にまとめて書くような場面を授業中に計画的に位置付けていくことが大切である。

エ 言語事項

ほとんどの小問で全国平均より高く、領域全体では3.5ポイント高い。また、前年度ほぼ全国平均と同じであった「主語の指摘」の小問は5.1ポイント上回り、定着が図られている。しかし、今年度新たに導入された部首、同音異義語の問題では、2問とも全国平均よりやや低い。また、領域全体では前年度の県平均と比べるとやや低くなっている。

そこで、指導に当たっては、全ての言語活動の指導の中で、基礎・基本としての言語事項の指導を恒常的に取り扱うとともに、文節、同音異義語、部首などの指導に当たっては、小テストなどの取り立て指導や他領域と横断的に関連付けた指導などを計画的に位置付けていくことが重要である。

(2) 社会

① 概要

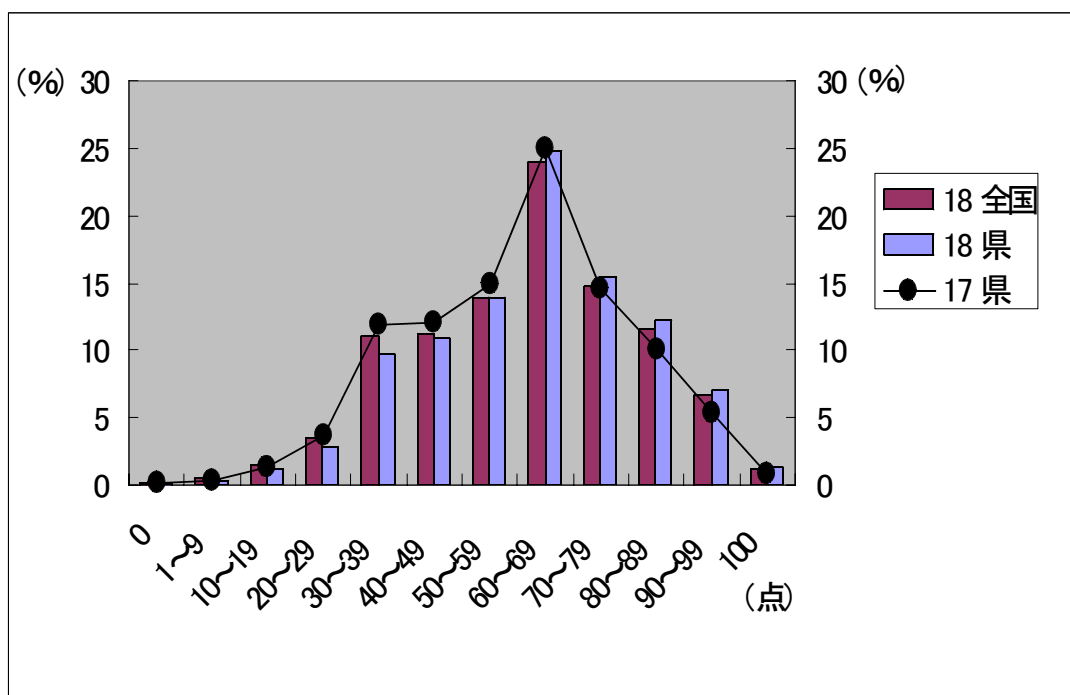
教科全体・各領域ともに全国平均とほぼ同じであるが、前年度に引き続き、「日本の地域構成」の領域で正答した生徒の割合が全国平均よりやや低い結果がみられる。教科に関する関心・意欲・態度は全国平均をやや上回っている。

今後は、今まで以上に地図を活用して、国土の位置や領域の特色を具体的にとらえるとともに各都道府県への関心を一層高め理解を深める工夫が必要である。また生徒の問題解決的な学習などの主体的な学習を展開することにより、資料活用能力・態度の育成に意を用いる必要がある。

② 平均点

		記号	平成18年度			平成17年度		
			全国	宮崎県	全国との差	全国	宮崎県	全国との差
全 体	教科全体		61.8	63.2	1.4	59.9	60.6	0.7
	基礎		62.5	64.4	1.9	60.6	61.6	1.0
	応用		59.8	60.0	0.2	58.1	58.4	0.3
観 点 別	社会的な思考・判断	A	68.2	68.2	0.0	64.2	64.6	0.4
	観察・資料活用技能・表現	B	69.6	71.3	1.7	68.5	69.6	1.1
	社会的事象についての知識・理解	C	59.7	61.2	1.5	57.4	58.3	0.9
領 域 別	世界と日本の地域構成	a	59.5	60.5	1.0	55.3	55.5	0.2
	地域の規模に応じた調査	b	72.9	75.1	2.2	69.9	71.4	1.5
	歴史の流れと地域の歴史・古代までの日本	c	63.2	65.0	1.8	63.9	65.3	1.4
	中世の日本	d	56.3	57.1	0.8	55.2	55.8	0.6

③ 得点分布グラフ



④ 小問ごとの出題内容と通過率 [中学校第2学年 社会]

大問	小問	出題内容					平成18年度			平成17年度		
		設問事項	観点別	領域別	設問形式	設問比較	全国	宮崎県	全国との差	全国	宮崎県	全国との差
1	1	海洋の分布	B, C	a	ア	○	73.2	75.9	2.7	75.5	76.9	1.4
	2	大陸の分布	B, C	a	ア	○	73.2	77.2	4.0	73.7	76.0	2.3
	3	時差	B	a	ア	○	48.3	49.3	1.0	49.8	49.9	0.1
2	1	世界の国々の姿	A, C	a	ア	□	85.9	85.7	-0.2	51.6	52.1	0.5
	2	南アメリカの姿	B, C	a	エ	○	69.0	74.3	5.3	71.3	72.0	0.7
3	1	日本の領域	C	a	ア	○	47.6	46.8	-0.8	43.2	42.4	-0.8
	2	日本の経済水域	C	a	ア	□	38.2	37.6	-0.6	35.7	35.4	-0.3
4	1	都道府県の姿(石川県)	C	a	ア	○	38.3	35.8	-2.5	35.2	33.6	-1.6
	2	都道府県の姿(青森県)	C	a	ア	○	61.6	62.4	0.8	61.5	61.2	-0.3
5	1	地図記号	C	b	ア	○	59.5	63.6	4.1	56.0	58.7	2.7
	2	グラフの作図	B	b	エ	○	84.9	86.2	1.2	82.0	82.7	0.7
	3	地域の変化の考察	A, B	b	ア	○	74.2	75.6	1.4	71.7	72.7	1.0
6	1	身近な地域の歴史を調べる	A, B	c	ア	○	79.7	79.5	-0.2	81.3	81.9	0.6
7	1	文明の起こり	C	c	イ	○	86.3	92.3	6.0	88.6	92.1	3.5
	2	大和朝廷の成立	C	c	ア	□	58.7	60.3	1.6	53.7	55.3	1.6
8	1	聖徳太子の国づくり	A, B, C	c	ア	○	59.9	59.7	-0.2	61.1	61.8	0.7
	2	律令国家における農民の生活	C	c	ア	○	45.8	46.8	1.0	46.0	46.7	0.7
	3	藤原氏の政治	B, C	c	ウ	○	58.9	63.0	4.1	63.4	66.8	3.4
	4	律令国家の変化	C	c	ア	○	53.2	53.6	0.4	53.2	52.9	-0.3
9	1	鎌倉幕府の成立	C	d	ア	○	42.6	44.3	1.7	42.2	43.4	1.2
	2	武家と公家の関係	B, C	d	ア	○	69.4	70.9	1.5	68.2	69.8	1.6
	3	人々の暮らしと信仰	A, B, C	d	ア	○	58.9	58.2	-0.7	55.1	54.8	-0.3
	4	元寇と鎌倉幕府	C	d	ア	○	54.2	55.2	1.0	55.2	55.1	-0.1

※ 「観点別」 A 思考・判断 B 技能・表現 C 知識・理解

※ 「領域別」 a 世界と日本の地域構成 b 地域の規模に応じた調査 c 歴史の流れと地域の歴史・古代までの日本 d 中世の日本

※ 「設問形式」 ア 記号選択 イ 空欄補充 ウ 空欄補充(思考記述) エ 描画・作図

※ 「設問比較」 ○印 昨年度と同一問題 □印 昨年度との類似問題 ◇印 今年度、新たに導入された問題

⑤ 領域別にみた指導方法の工夫改善の在り方

ア 世界と日本の地域構成

「世界の地域構成」に関しては、1つの小問をのぞいて全国平均よりやや高く、前年度と比較しても全国との差は大きくなっている。しかし、「日本の地域構成」の領域では、全国平均よりやや低い小問が4問中3問あり、全国との比較では前年度同様、すべての領域の中で最も低い結果となっている。

そこで、指導に当たっては、地球儀や世界地図を活用して地球表面の姿を大まかにとらえさせるとともに、日本地図を活用して我が国の国土について、その領域・特色を十分に理解させることが必要である。都道府県や都道府県庁所在地についても特色にふれながら生徒の興味・関心を喚起させ、各地の生活・文化を大観させることが大切である。

イ 地域の規模に応じた調査

この領域に関しては、すべての小問が全国平均よりやや高く、前年度、通過率の低さを指摘した地図記号の小問を含めて、前年度に比較して3～5ポイント高くなっている。作図の小問も全小問中2番目に高い通過率である。

そこで、指導に当たっては、地図や統計その他の資料に親しむ機会をより多くし、身近な地域に対する理解と関心を一層深めさせていく工夫を続けていくことが大切である。

ウ 歴史の流れと地域の歴史・古代までの日本

この領域に関しては、全体的には全国平均とほぼ同じであるが、「律令国家における農民生活の生活」「律令国家の変化」の小問はこの領域の中では通過率が低い結果が出ている。

そこで、指導に当たっては、史跡や博物館・資料館の見学・調査を取り入れ、生徒の興味・関心を高める工夫を行いながら、それぞれの時代の特色や人々の生活の変化について多面的・多角的に考察できるようにしなければならない。その際、図版資料等の視覚的資料を活用することが大切である。

エ 中世の日本

この領域に関しては、ほぼ全国平均と同じである。しかし、全体的に通過率が低い。特に「鎌倉幕府の成立」に関する小問は44.3ポイントと前年度同様、低い結果である。

そこで、指導に当たっては、歴史を学ぶ際の基本は時代の全体像の把握であるということに特に留意して、前の時代との比較をしたり絵や文献などの歴史資料を活用するなどの工夫をして、歴史の流れを大きく理解させることが重要である。

(3) 数学

① 概要

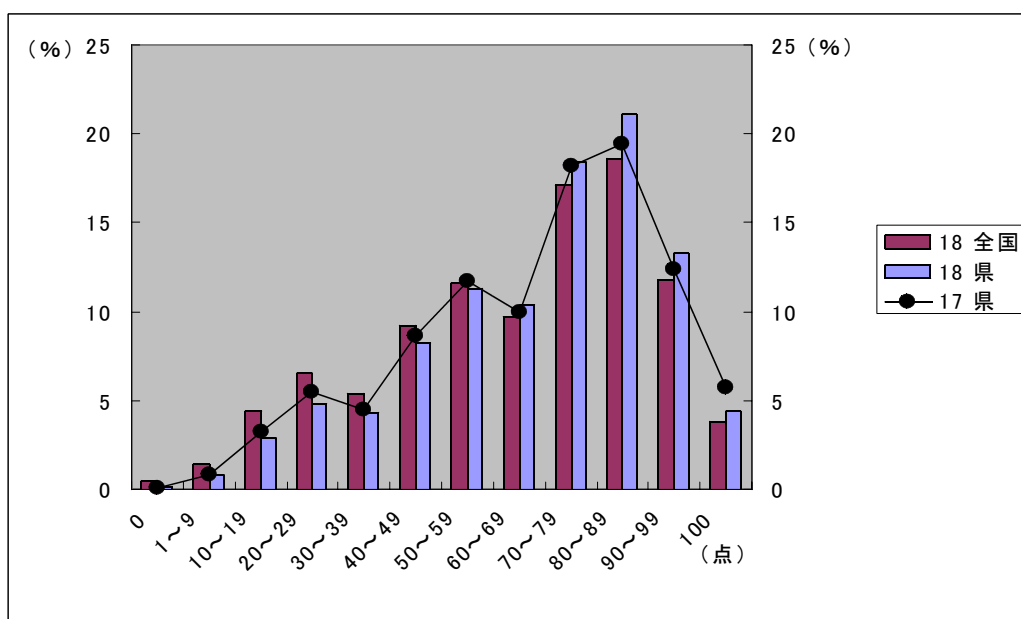
教科全体では、全国平均よりやや高い。領域別では、「数と式」の領域は高いが、「図形」の領域では、全国平均とほぼ同じである。関心・意欲・態度は前年度同様高く、概ね満足できる結果であった。

小問別でみると、「線対称な図形」、「円の構成要素」、「事象の中の比例関係」が全国平均と比べると低い結果であった。今後は、いろいろな角度から図形を見る習慣を身に付けさせるとともに、直観的な見方や考え方を深め、実生活と数学との関連を意識させることが必要である。

② 平均点

		記号	平成18年度			平成17年度		
			全国	宮崎県	全国との差	全国	宮崎県	全国との差
全 体	教科全体		64.7	68.6	3.9	63.0	67.8	4.8
	基礎		67.4	71.7	4.3	64.1	68.8	4.7
	応用		53.0	55.2	2.2	58.2	63.4	5.2
観 点 別	数学的な見方や考え方	A	53.0	55.2	2.2	58.2	63.4	5.2
	数学的な表現・処理	B	61.4	66.6	5.2	59.6	64.8	5.2
	数量・図形などについての知識理解	C	71.6	74.1	2.5	68.2	72.2	4.0
領 域 別	数と式	a	67.7	73.0	5.3	63.1	69.9	6.8
	図形	b	70.7	71.5	0.8	69.9	70.6	0.7
	数量関係	c	53.6	57.3	3.7	56.0	60.1	4.1

③ 得点分布グラフ



④ 小問ごとの出題内容と通過率 [中学校第2学年 数学]

大問	小問	出題内容				平成18年度			平成17年度		
		設問事項	観点別	領域別	設問比較	全国	宮崎県	全国との差	全国	宮崎県	全国との差
1	1	絶対値の意味の理解	A	a	○	66.3	70.6	4.3	64.2	70.8	6.6
	2	文字式における係数	A	a	○	77.9	87.4	9.5	49.9	66.6	16.7
	3	等式の性質	A	a	○	71.1	72.8	1.7	69.2	72.5	3.3
	4	文字式の表し方	A	a	○	66.4	72.3	5.9	63.8	72.5	8.7
2	1	正の数・負の数の減法	B	a	○	85.7	89.5	3.8	84.9	89.5	4.6
	2	累乗の計算	B	a	○	63.3	68.7	5.4	63.9	68.8	4.9
	3	正の数・負の数の四則混合計算	B	a	○	66.5	74.7	8.2	75.1	80.9	5.8
	4	一次式の減法	B	a	○	65.7	72.5	6.8	63.2	71.8	8.6
	5	文字式への値の代入	B	a	○	75.7	81.4	5.7	71.8	76.5	4.7
	6	一次方程式	B	a	○	71.6	77.9	6.3	70.9	75.4	4.5
3	1	線対称な図形	A	b	○	76.0	74.3	-1.7	75.6	72.7	-2.9
	2	円の構成要素	A	b	○	59.7	58.2	-1.5	58.3	59.0	0.7
	3	垂直二等分線の作図方法	A	b	○	73.7	74.5	0.8	72.9	74.9	2.0
	4	点対称な図形における対応する辺	B	b	○	89.9	91.4	1.5	90.3	91.9	1.6
	5	正四角錐の体積	B	b	○	35.8	41.3	5.5	36.5	39.2	2.7
4	1	座標の意味の理解	A	c	○	85.5	89.9	4.4	85.8	89.4	3.6
	2	事象の中の比例関係	A	c	○	48.2	47.0	-1.2	49.1	51.9	2.8
	3	反比例の関係を表す式	A	c	○	73.7	78.3	4.6	74.9	78.1	3.2
	4	比例のグラフの式	B	c	○	41.2	47.8	6.6	39.2	44.1	4.9
	5	比例の表と式	B	c	○	50.8	56.5	5.7	50.6	56.3	5.7
5	1 1	数量の関係を式で表現	B	a	○	70.0	76.1	6.1	44.7	52.0	7.3
	1 2	数量の関係を式で表現	C	a	□	27.3	27.0	-0.3	32.2	38.3	6.1
	2 1	具体的事象から一次方程式を解く	C	a	○	72.6	78.3	5.7	72.9	78.6	5.7
	2 2	具体的事象から一次方程式を解く	B	a	○	67.3	73.1	5.8	67.9	73.4	5.5
	3 1	具体的な事象と反比例	B, C	c	◇	37.3	40.8	3.5	51.4	60.2	8.8
	3 2	具体的な事象と反比例	B, C	c	◇	38.9	40.5	1.6	36.3	40.6	4.3
	4	サイコロの展開図の作図	A, C	b	○	89.1	89.4	0.3	86.0	85.9	-0.1

※ 「観点別」 A 数量・図形などについての知識・理解 B 数学的な表現・処理 C 数学的な見方や考え方
 ※ 「領域別」 a 数と式 b 図形 c 数量関係
 ※ 「設問比較」 ○印 昨年度と同一問題 □印 昨年度との類似問題 ◇印 今年度、新たに導入された問題
 ※ 中学校数学では、「設問形式」については特には分析を行っていません。

⑤ 領域別にみた指導方法の工夫改善の在り方

ア 数と式

ほとんどの小問で全国平均より高いが、前年度と比較すると、14問中9問の通過率が低くなっており、「数と式」領域における基礎・基本の定着を更に図る必要がある。

そこで、指導に当たっては、数量関係を式で表現する問題については、条件を数式化し問われていることが何であるか、しっかりと文章を読みとることが必要である。また計算については、等式の性質などしっかりと理解させた上で、確認テストや小テストなどを行い、年間を通して繰り返し練習することで、速く正確に処理する力を定着させたい。正負の計算や絶対値の問題については、用語の意味を理解させることは勿論であるが、数直線を利用して考えたり、計算結果を確かめるなどの指導も必要である。さらに、途中の式を丁寧に書かせることで、不注意による誤りを防ぐ習慣を身に付けさせることが大切であり、生徒の実態把握と個別指導の時間を充実させるとともに、継続した指導が重要である。

イ 図形

領域全体で見ると全国平均とほぼ同じであるが、小問別の通過率では6問中2問が、全国平均より低く、他の領域と比べて最も低い結果である。

そこで、指導に当たっては、対称については、図形をかいたり、実際に紙を折ったり、回転させたりするなどの数学的活動を取り入れることなどによって、線対称と点対称の違いなどを十分に理解させる指導が重要である。また、コンパスと定規を使って、角の二等分線、線分の垂直二等分線や垂線などの基本的な作図はしっかりと身に付けさせる必要がある。立体の展開図にも慣れるように、模型を作ったり、実験したりするなど数学的活動の場を取り入れていく必要がある。

ウ 数量関係

領域全体で見ると全国平均よりやや高いが、比例や反比例の問題は前年度同様低かった。

そこで、指導に当たっては、2つの数量の変化や対応を調べたり、比例や一次関数などを学習する際には、常に表と式、グラフを十分に関連づけながら、理解を深めさせることが大切である。また、数量の変化の様子をグラフに表すことによさや、グラフを利用して、問題解決を図ることのよさに気づくような指導が必要である。さらに、単に結果を出すだけでなく、その結果は何を根拠にどのような手順で導き出したのか、その過程で既習の知識をどのように生かしたかなど、自分なりの考えを筋道立てて説明したり、結果を導く過程を振り返ったりする活動を充実させる必要がある。

(4) 理科

① 概要

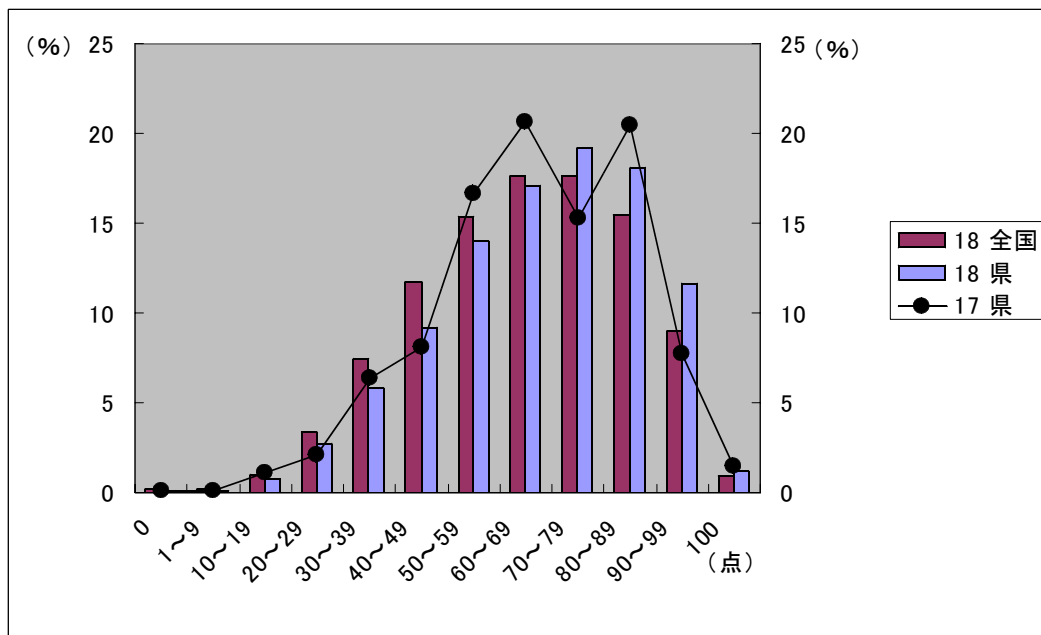
教科全体、各領域ともに全国平均よりやや高い。観点別にみると「自然事象についての知識・理解」が全国と比較してやや高く、基礎的・基本的な内容の定着が図られている。領域別にみると「身の回りの物質」・「植物の生活と種類」が全国との差において、前年度よりも大きく、指導の充実が図られていると考えられる。また、理科に関する関心・意欲・態度については、自然事象を「おもしろい」と感じたり実験や観察に積極的に取り組んだりする生徒が8割を超えている。しかし、「大地の変化」の領域では、全国平均よりやや高いものの、前年度の状況と比較して、改善されているとは言えない。

今後は、特に「大地の変化」の領域で、身近な地形、地層、岩石などの観察を通して、学習内容の定着を図るための指導の工夫を行うことが大切である。

② 平均点

		記号	平成18年度			平成17年度		
			全国	宮崎県	全国との差	全国	宮崎県	全国との差
全 体	教科全体		63.0	66.3	3.3	65.0	66.5	1.5
	基礎		66.2	69.9	3.7	65.9	67.3	1.4
	応用		54.0	56.5	2.5	63.0	64.7	1.7
観 点 別	科学的な思考	A	53.2	56.1	2.9	57.7	59.4	1.7
	観察・実験の技能・表現	B	65.1	67.8	2.7	65.9	66.8	0.9
	自然事象についての知識・理解	C	67.6	71.9	4.3	68.6	70.5	1.9
領 域 別	身近な物理現象	a	60.5	63.2	2.7	62.6	64.4	1.8
	身の回りの物質	b	62.4	67.3	4.9	67.0	68.2	1.2
	植物の生活と種類	c	62.5	66.7	4.2	62.9	65.0	2.1
	大地の変化	d	66.2	67.4	1.2	68.4	69.0	0.6

③ 得点分布グラフ



④ 小問ごとの出題内容と通過率 [中学校第2学年 理科]

大問	小問	出題内容				平成18年度			平成17年度			
		設問事項	観点別	領域別	設問形式	設問比較	全国	宮崎県	全国との差	全国	宮崎県	全国との差
1	1	実像と虚像	C	a	エ	○	59.7	62.2	2.5	59.9	62.2	2.3
	2	凸レンズの距離と実像の大きさ	B	a	エ	○	57.4	59.0	1.6	57.9	59.4	1.5
	3	焦点距離	A	a	ク	○	21.4	22.8	1.4	23.7	23.7	0.0
2	1	2力のつりあい	C	a	ウ	○	59.5	65.8	6.3	63.8	68.2	4.4
	2	2力がつりあっている時の性質	B	a	ク	○	92.6	93.9	1.3	93.0	93.8	0.8
	3	物体にはたらく力	A	a	ウ	○	72.4	75.6	3.2	77.4	79.4	2.0
3	1	子房	C	c	カ	○	66.9	72.3	5.4	65.7	68.7	3.0
	2	植物名とその分類	A	c	カ	◇	72.3	77.1	4.8			
	3	植物の特徴と分類	C	c	カ	○	86.4	89.8	3.4	87.5	89.7	2.2
	4	合弁花と離弁花	A	c	カ	○	49.9	54.7	4.8	53.1	55.1	2.0
4	1	蒸散のはたらき	C	c	カ	○	64.2	67.9	3.7	64.5	67.0	2.5
	2	蒸散と気孔	C	c	イ	○	71.0	72.5	1.5	68.6	70.1	1.5
	3	葉と蒸散の関係	A	c	イ	□	42.0	45.6	3.6	49.6	51.3	1.7
	4	顕微鏡の使い方	B	c	エ	○	58.1	60.8	2.7	59.4	59.6	0.2
	5	顕微鏡における低倍率と高倍率の特徴	B	c	エ	○	51.9	59.7	7.8	55.3	58.5	3.2
5	1	気体を発生させる方法	C	b	カ	○	63.2	68.5	5.3	68.0	69.6	1.6
	2	気体の発生	A	b	イ	○	77.6	80.5	2.9	82.9	83.5	0.6
	2	気体の発生	A	b	ウ	○	46.6	48.9	2.3	55.2	57.3	2.1
	3	発生した気体の特定	B	b	ウ	◇	75.1	80.9	5.8			
6	1	水の状態変化	C	b	エ	○	61.3	63.9	2.6	63.5	63.5	0.0
	2	融点	C	b	オ	◇	45.1	55.8	10.7			
	3	水の状態変化とグラフ	B	b	イ	○	67.3	67.0	-0.3	59.5	59.6	0.1
	4	沸騰石のはたらき	B	b	ウ	○	63.1	72.9	9.8	72.7	75.5	2.8
7	1	地層の様子	C	d	エ	○	75.7	79.8	4.1	80.0	81.5	1.5
	2	堆積の順番	B	d	イ	○	62.9	64.6	1.7	60.8	62.2	1.4
8	1	火山灰の観察方法	B	d	エ	○	39.0	35.4	-3.6	31.7	29.9	-1.8
	2	鉱物の種類	C	d	カ	○	80.2	76.5	-3.7	69.1	67.5	-1.6
9	1	地震	C	d	オ	○	78.4	87.7	9.3	83.6	86.9	3.3
	2	震源	B	d	イ	○	84.3	84.0	-0.3	85.2	85.9	0.7
	3	地震の規模と震度	A	d	エ	◇	43.6	43.6	0.0			

※ 「観点別」 A 科学的な思考 B 観察・実験の技能・表現 C 自然事象についての知識・理解
 ※ 「領域別」 a 身近な物理現象 b 身の回りの物質 c 植物の生活と種類 d 大地の変化
 ※ 「設問形式」 ア 図表記述 イ 図表選択 ウ 文章記述 エ 文章選択 オ 用語記述 カ 用語選択 キ 数値記述 ク 数値選択
 ※ 「設問比較」 ○印 昨年度と同一問題 □印 昨年度との類似問題 ◇印 今年度、新たに導入された問題

⑤ 領域別にみた指導方法の工夫改善の在り方

ア 身近な物理現象

ほとんどの小問で全国平均よりやや高い。また、「物体にはたらく力」の単元では、2力のつり合いの条件やつり合う力の図示に関して、全国平均と比較して通過率が高く、基礎・基本の定着が図られている。しかし、「焦点距離」に関する小問では、全国平均と同程度であるが、前年度と同様、通過率が22.8ポイントと依然として低い状況である。

そこで、指導に当たっては、凸レンズのはたらきについての指導を徹底する必要がある。特に、実験を通して、物体と凸レンズの距離を変え、実像と虚像ができる条件を探らせ、実像の位置や大きさについての規則性を定性的に見いださせる授業の工夫が望まれる。

イ 身の回りの物質

4領域の中で、最も定着が図られていた領域であり、ほとんどの小問で全国平均よりやや高い。また、「融点」や「沸騰石のはたらき」の記述式の小問では、全国平均を10ポイント程度上回っており、定着が図られている。しかし、「融点」や「発生した気体の性質」の無解答率が、それぞれ14.9ポイント、12.7ポイントと高い状況である。また、「水の状態変化とグラフ」の小問では、全国平均よりやや低く、前年度同様、定着が不十分な状況である。

そこで、指導に当たっては、水の特徴を理解させる実験を通して、加熱を続けた水の状態変化についてのグラフを読み取る力を身に付けたり、基本的な用語や自然事象の理由等を説明するための表現力を育成する指導が望まれる。

ウ 植物の生活と種類

すべての小問で全国平均より高い。また、「子房」と「顕微鏡における低倍率と高倍率の特徴」の小問では、全国平均を5ポイント程度上回っており、基礎・基本の定着が図られている。しかし、「葉と蒸散の関係」の小問では、全国平均よりやや高いが、45.6ポイントの通過率であり、また、前年度との類似問題との比較においても定着が不十分な状況である。

そこで、指導に当たっては、葉が多量な水を蒸散する器官であることを、葉の断面や気孔などの観察や蒸散に関する実験の結果や作成したグラフなどと関連付けて理解させるとともに、葉以外の部分からの蒸散量についてもふれることが必要である。

エ 大地の変化

領域全体で見るとほぼ全国平均と同じである。「地震」の小問では、通過率が前年度よりも6ポイント、全国平均よりも9ポイント以上高く、基礎・基本の定着が図られている。しかし、「火山灰の観察方法」、「鉱物の種類」、「震源」においては全国平均よりやや低かった。特に「火山灰の観察方法」、「鉱物の種類」については、前年度との比較においても全国平均との差が大きくなっている。

そこで、指導に当たっては、火山灰などの噴出物が、性質の異なる何種類かの粒からなっていることを、比較・観察をとおして理解させたり、観察の際の注意事項とその理由等についてもあわせて指導したりすることが大切である。

(5) 英語

① 概要

教科全体、各領域とも平均点が全国平均よりやや高い。また、教科に関する関心・意欲・態度についても、各設問に肯定的な回答をした生徒の割合が全国平均よりやや高く、教科全体として前年度に引き続き概ね満足できる結果である。

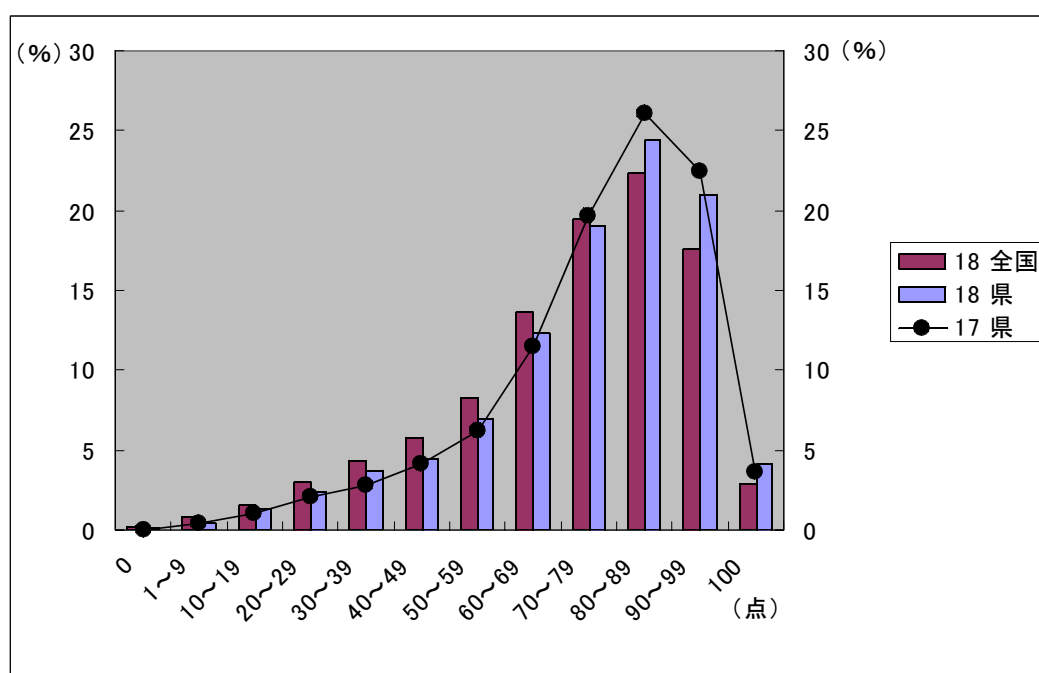
観点別にみると、「理解」が良好な結果であるのに対し、「表現」にやや課題が残る。中でも、「文法・表現・英作文」における、英語的表現や英作文の通過率が低い。

今後は、英問英答を日常的に行うことを通じて、英語の表現に慣れさせたり、テーマを指定して、つながりのある複数の英文を書かせたりすることが大切である。

② 平均点

		記号	平成18年度			平成17年度		
			全国	宮崎県	全国との差	全国	宮崎県	全国との差
全 体	教科全体		71.3	74.3	3.0	73.5	75.7	2.2
	基礎		80.0	82.4	2.4	82.4	84.6	2.2
	応用		62.0	65.7	3.7	64.0	66.3	2.3
観 点 別	理解	A	81.0	83.5	2.5	83.4	85.6	2.2
	表現	B	60.9	64.5	3.6	63.0	65.2	2.2
	言語文化理解	C	72.8	78.4	5.6	75.6	79.5	3.9
領 域 別	リスニング	a	84.3	86.4	2.1	84.5	86.9	2.4
	読解問題	b	79.8	82.0	2.2	82.8	84.7	1.9
	文法・表現・英作文	c	63.7	67.4	3.7	65.8	68.2	2.4

③ 得点分布グラフ



④ 小問ごとの出題内容と通過率 [中学校第2学年 英語]

大問	小問	出題内容					平成18年度			平成17年度		
		設問事項	観点別	領域別	設問形式	設問比較	全国	宮崎県	全国との差	全国	宮崎県	全国との差
1	1	英文のリスニング	A	a	ア	○	85.4	87.6	2.2	84.2	86.4	2.2
	2	英文のリスニング	A	a	ア	○	92.9	91.5	-1.4	92.2	92.7	0.5
	3	英文のリスニング	A	a	ア	○	73.4	74.8	1.4	76.5	77.9	1.4
2	1	対話のリスニング	A	a	ア	○	82.4	87.5	5.1	82.1	86.5	4.4
	2	対話のリスニング	A	a	エ	○	87.5	90.4	2.9	87.5	91.2	3.7
	3	対話のリスニング	A	c	エ	○	75.4	83.7	8.3	84.1	88.0	3.9
3	1	英語的表現	B	c	ウ	○	46.1	49.4	3.3	47.1	47.6	0.5
	2	英語的表現	B	c	ウ	○	20.7	29.7	9.0	25.8	31.4	5.6
	3	英語的表現	B	c	ウ	○	15.3	16.2	0.9	17.1	13.9	-3.2
4	1	表現の知識理解	B	c	ア	○	92.2	94.1	1.9	92.2	94.3	2.1
	2	表現の知識理解	B	c	ア	○	81.8	77.1	-4.7	81.1	77.1	-4.0
	3	表現の知識理解	B	c	ア	○	81.9	81.5	-0.4	80.7	82.6	1.9
5	1	会話表現・状況判断	B	c	ウ	○	80.2	85.6	5.4	81.5	86.7	5.2
	2	会話表現・状況判断	B	c	ウ	○	59.1	63.9	4.8	65.9	72.4	6.5
	3	会話表現・状況判断	B	c	ウ	○	43.1	46.2	3.1	44.6	45.6	1.0
	4	会話表現・状況判断	B	c	ウ	○	28.9	31.9	3.0	29.3	28.6	-0.7
6	1	並べ替え英作文	B, C	c	イ	○	61.4	69.8	8.4	68.0	72.4	4.4
	2	並べ替え英作文	B, C	c	イ	○	91.6	92.2	0.6	91.6	94.2	2.6
	3	並べ替え英作文	B, C	c	イ	○	86.7	89.0	2.3	88.1	89.9	1.8
	4	並べ替え英作文	B, C	c	イ	○	65.2	65.6	0.4	68.7	70.6	1.9
	5	並べ替え英作文	B, C	c	イ	○	58.8	75.5	16.7	61.6	70.6	9.0
7	1	会話の状況把握	A	b	ア	○	85.8	87.8	2.0	85.8	87.8	2.0
	2 1	会話の内容把握	A	b, c	ア	○	72.4	74.5	2.1	72.6	75.2	2.6
	2 2	会話の内容把握	A	b, c	ア	○	84.7	86.2	1.5	84.1	86.2	2.1
	3	会話の内容一致(順不同)	A	b	ア	○	92.0	93.9	1.9	92.2	93.7	1.5
8	1 1	英文の内容理解	A	b	ア	□	81.6	83.6	2.0	89.4	91.1	1.7
	1 2	英文の内容理解	A	b	ア	□	68.3	68.8	0.5	79.9	81.3	1.4
	1 3	英文の内容理解	A	b	ア	□	57.1	60.6	3.5	59.6	61.5	1.9
	2 1	英文の内容把握	A	b	ア	○	85.4	88.1	2.7	88.5	90.5	2.0
	2 2	英文の内容把握	A	b	ア	○	86.5	89.2	2.7	88.5	90.7	2.2
	2 3	英文の内容把握	A	b	ア	○	84.6	87.4	2.8	86.9	89.1	2.2

※ 「観点別」 A 理解 B 表現 C 言語文化理解

※ 「領域別」 a リスニング b 読解問題 c 文法・表現・英作文

※ 「設問形式」 ア 記号選択 イ 空欄補充(選択記述) ウ 空欄補充(思考記述) エ 思考記述

※ 「設問比較」 ○印 昨年度と同一問題 □印 昨年度との類似問題 ◇印 今年度、新たに導入された問題

⑤ 領域別にみた指導方法の工夫改善の在り方

ア リスニング

ほとんどの小問の通過率が9割前後と全国平均より高く、概ね良好な結果である。

そこで、今後の指導においても、生徒が英語を聞いたり、話したりする活動を意図的に設定するとともに、継続していくことが大切である。さらに、対話や英文における内容を正確につかませるために、あらかじめ聞き取りの視点をいくつか示したり、内容を把握するうえで大切な語に気付かせたりしていく工夫が大切である。

イ 読解問題

前年度に引き続き、すべての小問で全国平均より高い。しかも、通過率のほとんどが8割以上と、良好な傾向がみられる。ただ、今回、選択肢の数が増えた問題については、すべて前年度より通過率がやや低くなっている。

そこで、指導に当たっては、これからも、内容を理解させる視点を大切にしながら、英文を読む活動を取り入れていくことが大切である。また、段階を追って、英文の要旨がつかめる活動へと指導を工夫していくことが望まれる。

ウ 文法・表現・英作文

前年度に引き続き、ほとんどの小問で全国平均より高い。しかし、全国平均より高いものの、英語的表現の問題については、通過率が3割に達していないものもある。

そこで、指導に当たっては、語や英文を書くことに日頃から慣れさせることが大切である。また、言語活動を行う際、既習の大切な表現を意図的・計画的に取り入れていき、書くことと他の言語活動を関連付けて指導していく必要がある。さらに、英問英答を日常的に行いながら、英語の表現に慣れさせたり、テーマを指定して、意味のつながりを意識させた複数の英文を書かせたりすることが望まれる。